

百葉

Manyok

大島理森衆議院議長（尾崎行雄記念財団会長）と語る会

東北復興支援ネパール支援チャリティーの集

7月16日午後7時。梅雨の陰鬱な空気を吹き飛ばすかのような、大きな拍手が憲政記念館に響きました。この日国会の周りは、“安保反対”のデモの人・人・人の波……。反対の叫びと共に旗・旗・旗の洪水。やっとの思いで人垣をかき分けてたどり着いた会場。

50周年を10月に控えた一冊の会にとって、また新たな歴史の1ページを刻んだ瞬間でした。

大島理森(ただもり)衆議院議長(尾崎行雄記念財団会長)と語る会・東北復興支援ネパール支援チャリティーの集い(主催:尾崎行雄記念財団)が開催されました。大島議長の記念講演と、一冊の会の活動報告。また尾崎記念財団から一冊の会への支援金を会の代表として左近充尚典氏に贈呈をして頂きました。



“the Speaker”、単なる演説者ではなく、衆議院議員の代表者としての自覚を常に感じていると大島理森衆

議院長は講義の冒頭で^{おっしゃ}仰いました。国政に参画して33年目となった大島衆議院議長は国会議員に当選されてから、省庁長官・大臣、国会対策委員長、副総理等を歴任され、今年の4月21日に第76代衆議院議長に選出されました。

大島会長は、始めに日本・世界の歴史を学ぶことの大切さを語られました。憲法も国会も持たない日本が、江戸時代不平等条約を大国から押しつけられ、1867年(明治元年)明治に入り1889年(明治22年)帝国憲法が發布。1890年(明治23年)第一回日本初の総選挙が行われ国会開院式が挙行され国会が開所。日清戦争(1894年)・日露戦争(1904年)1907年講和条約成立。この二つの大戦に勝利。世界からは、戦費の財源はどう捻出したのか?と驚かれた程。それは日本が、不平等条約を正すという強い目標があったので、もの凄いエネルギーと情熱と信念で勝ち進んでいくことが出来た。



◀ 国会議員の先生方をご紹介いただきました。

まさに激動の 40 年間であった。憲政擁護・藩閥族打破の政争が展開され軍閥と政党、そして尾崎先生の精神が活かされず日本は、アジア・南西アジアに戦いを進め、第二次世界大戦に敗れた末、主権在民の新憲法が制定された。

大戦、敗戦、日本復興、と目まぐるしく変動する時代。常に国を！国民を！第一に考え常に自主的に行動された尾崎峯堂先生のことを考えると、日本をより良くする為に強い志が大切と力強く主張されました。



「人生の本舞台は常に将来にあり」を箴言とされた尾崎峯堂先生は常に謙虚であり、また情熱と、何よりも自分の発言に責任をもっておりました。特に今時代は「グローバル」。政治、経済、文化、社会すべてが国際化しております。変化のスピードについていくために、議論を重ね結論を出す責任感。そのためには、歴史を学び世界からも学んで行きたいと思っている。

大いなる議論をすることによって、その中から合致する点を見つけ出し、合意する努力をする。そして最終的に結論を下すことが大事である。

今後も尾崎翁の信念・生き方・理念を基に、議会の在り方を考え、議会政治の更なる発展に寄与していきたい。とも語られました。

議会政治のあり方が問われる昨今、責任ある立場の政治家として真剣に取り組んでいられる姿勢、また困難な問題に対して決断を下さなければならないご苦労が偲ばれるお話に、大感動致しました。

今の若い政治家の方々に明治維新直後、新しい日本の国を創るために命を懸けて奮闘した政治家たちの情熱と信念があるのだろうか・・・と思わずにはられません。

選ぶ側の私たちの責任の重さを改めて考えさせられた機会となり、私たちにとって特別な一夜になりました。

後日、櫻華塾で大島会長の講演の内容を各自研鑽しました。

東日本大震災とネパール支援のご報告は別途、万葉にてお知らせいたします。

(大槻・小山・箱根・平間・村岡・瀧川・椎名)



▲ 支援の文房具類を持った大妻中野高等学校の皆さん。